



『神に愛されている者として!』(要旨)

コロサイ 3・12~14 説教者 原田憲夫

今週の聖句 コロサイ 3・12

賛美 : [説教前] 教会福音讃美歌 442 番(1,2 節), [説教後] 同 445 番(1-3 節)

今朝は特に、“コロサイの聖徒たち”を通して「神の恵み」によって与えられた“徳”について思いを巡らします。

序

使徒時代のコロサイは美しいリュコス溪谷にある小さな町で、エペソの東約 150km のところにあり、近くには栄えていたラオディキア(4-16)やヒエラポリスがありました。これらの町に福音が伝えられ、信者の群れが生まれ(4-3,15-16)、コロサイ出身のエパfras(1-6,4-12~13)とピレモン(ピレモン 1-2,5,23)が大事な役目を担っていました。

【1】「あなたがたは神に選ばれた者、聖なる者、愛されている者として…」(12a)

この手紙の受取人は「コロサイにいる聖徒たち」(1-2)と呼ばれます。「聖徒」とは、所謂、「聖者」とか「聖人」という意味ではなく、ただ神の恵みによりキリストの十字架による罪の贖いを信じ、「神の家族」に迎えられた者のことです。それが「あなたがたは神に選ばれた者、聖なる者、愛されている者として…」です。

この人たちはお互いを「兄弟姉妹」と呼び交し、国や民族の違いを超えた「神の家族」の喜びに目覚めました。特に当時、キリスト信者には苦難の時代でしたから、「神の家族」として互いに励まし合うことをみな身をもって実践したのです。

【2】「深い慈愛の心、親切、謙遜、柔和、寛容を着なさい。」(12b,13)

キリストにあって「神の家族」とされた一人ひとり、*「古い人を脱ぎ捨て、新しい人を着ています」*(3-9,10. *マタイ* 4-22-24)。罪に汚れた服-古い性質を脱ぎ捨て、キリストの血によってきれいにされた新しい服-新しい性質(徳)を身にまとっているというのです。

以下がその「徳目」です。

(1)「深い慈愛の心」

弱肉強食の世界で、弱い立場にある人たちに向けられたキリストの憐れみの心です。

(2)「親切」

年月を経てまるやかに熟成したぶどう酒のよう

に、思いやりにあふれたやさしさです。

(3)「謙遜」

古典ギリシア語には、卑しいもの、卑下したもののという語はあっても、「謙遜」にあたる語がなかったといえます。キリストの謙遜を学んでいる人からは、「傲慢」が消えます(マタイ 10:45)。

(4)「柔和」

真に怒るべき時に怒り、間違った時に怒らない、感情を制御できる心です。

(5)「寛容」

侮辱を受けた時、決して忍耐を失わない精神です。キリストの忍耐を学んでいる人に宿ります。

(6)「互いに忍耐し合い、赦し合うこと」(13)

滅びるに価する者なのに「ただ神の恵みによって」神に赦され、神に愛されている者にすぎないというところに立ち続ける人に育つ心です。

【3】「愛を着けなさい-完全に結ぶ帯」(14)

この手紙は、今見てきた「徳」を一つに結ぶ「結びの帯」、それが「愛」だと明言します。

「からだ」が「からだ」であるために、私たち一人ひとりがこれらの「徳」を身に着けること、そして、「結びの帯-愛」を締めることを忘れてはなりません。▷ *1コリント* 13-13。

【勧め】

「神に愛されている者たち-コロサイの聖徒たち」へのこれらの勧めは、現代の私たちキリスト信者-教会を霊的に引き上げる、すばらしい挑戦ではないでしょうか。

今日、これらの勧めをしっかりと心に刻み、「神に愛されている者として」ご一緒に歩もうではありませんか!

*祈り

*賛美

